



●新刊紹介 青の図鑑

書名：理想の色に巡り会える・青の図鑑

発行：(株)三オブックス 文庫版 231 頁

監修：橋本実千代

監修協力：園田好江・三本由美子

発行：2023 年 6 月 15 日 1,800 円+税

全体は、「あおいろ」「しぜん」「つくる」「ことば」の4章構成になっています。

「あおいろ」は日本の青：48 色名。フランスの青：36 色名、世界の青：36 色名構成。

「しぜん」は、花やキノコなどの 21 の植物の青。鳥や蝶などの 50 の動物の青。青空や海などの 21 の大気や水の青。魚などの 15 の青。宝石の 24 の青で構成されています。

「つくる」は、建物外装や内装の 14 の青。藍染をはじめとする服飾や陶磁器などの 26 の青。名画に使われている 19 の青。

「ことば」は、青のイメージがよい熟語やことわざ、季語、俳句、短歌、名言、詩、文学作品、映画などが紹介されています。

最後に、「青色一覧」として 282 色の青の色票が添えられています。

残念なのは文庫版のため活字が小さく、読みにくい点です。ぜひ他の色の図鑑も順次発行して欲しく、多色の図鑑が揃うことで、より深い意義が生じると思われます。(永田泰弘)

●城一夫名誉会員を偲んでー 12

城一夫著 『常識として知っておきたい「美」の概念 60』 2012 年発行
PIE International 2,300 円

フランソワ・ブーシェ《アモルの標的》を大胆に見切れさせた表紙デザイン。

カバーを外すと溜息を誘うピンクが現れる。綴じ込まれた年表は鮮烈なイエローで目を引く。

232 頁の本書は、美術やデザインの歴史を縦軸に、東西の美やデザインの事例を横軸に考察し、美の概念が整理分類されている。城一夫氏のエッセンスも控えめに散りばめられ、名作チェアも登場する。

北欧デザインと暮らしを日本に伝えた第一人者・島崎信氏との親交があり、ARNE JACOBSEN などを解説した講義では、自宅から名作 Ant Chair を持ち込んで解説した。

本書を読むと、ページをめくるたびにブラウザが立ち上がる感覚を得て、城一夫氏の講義の情景や言葉がリアルに蘇る。

現代の多様な価値観や生き方において、「美」もひと括りでは語れない。美の多様性を探求し、新たな視点が得られる一冊。時空を超えた美の旅へ出かけよう。

(江副好美)

●大辞泉ひろいよみ 23ーう

薄絹・薄帛：平絹、紗、絹などのように、生地が薄い絹。逆は厚絹。

薄紅：うすくれない。薄い紅色。淡紅。

薄黒い：少し黒い。ぼんやりと黒みがかった色。

薄紅梅：花が淡紅色の紅梅。紅梅の花に似た色。とき色。織り色の名。縦糸は薄紫、横糸は薄紅。裏の色目の名。表裏とも薄い紅梅色、または表は薄紅、裏は紫。

薄琥珀：琥珀織りの薄い絹織物。ドレス・リボンに用いる。タフタ。

薄彩色：うすざいしき。墨絵の上に薄く彩色したもの。

薄桜：色の薄い桜の花。薄花桜に同じ。

薄桜萌葱：裏の色目の名。表裏とも薄青。一説に、表は薄青、裏は薄紅とも。春に用いる。

薄白い：少し白い。ぼんやり白い。白っぽい。

薄墨：うすずみ。墨が薄いこと。書いた墨の色が薄いもの。逆は濃墨。

薄墨色：墨色の薄いもの。ねずみ色。

薄墨紙：反故を漉き直した紙。墨の色が抜けていないため、薄墨色を呈する。

薄墨衣：薄墨色に染めた衣服。多く喪服に用いる。

薄染：色を薄く染めること。(永田泰弘)